

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

なし

(発行年 / Year)

1910

モノト看做ササレコトヲ得ス是レ既成法典ニ於テモ現在ノ儘ニ財產ヲ返還シ其既ニ處分シタルモノニ付テハ之ニ由リテ利得シタルモノノミヲ返還スルヲ以テ足レリトセル所以アリ若シ然ラハ敢テ元本ト果實トヲ分ツノ理アラサルナリ

四ノ既成法典人事編第二百八十四條及第二百八十七條の場合ニ於テハ三千年間又ハ普通ニ時効ノ成就セルマデハ果實ニ關シテ第二百八十四條第二項ノ規定アルノ外毫モ占有者ヲ保護ス然リト雖モ一旦失跡ノ宣告ヲ以テ失跡者ノ死亡ノ時ヲ假定スル以上ハ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル人ニ對シテモ其失跡ノ宣告ニ因リテ財產ヲ得タル者ヲ保護スルニ非ズシテ失跡ノ宣告ニ却テ其者ヲシテ不貞ノ損害ヲ被ムラシムルノ惡クラン是レ本案ニ於テハ汎ク占有者ヲ保護スル所以ナリ

五人事編第二百八十四條ニハ財產占有者ノ得タル日ヨリ二十年間ハ其ノ相續人ニ財產ヲ返還スヘキモノトセリ然リト雖モ裁判所ニ於テ失跡ノ宣告アリシカガ爲メ去踪者ハ某ノ時ニ死亡シタリト信シ正當ニ相續ヲ得タル者ハ必ス善意且正權原ハ占有トセルハカラス若シ然ラハ既成法典ニ據リテハ十五年ニテ時効ヲ得ヘキノナリ(註一四〇)一項一四九三項若シ又右ノ條件ヲ具備セズトスレハ人事編ノ明文ナキモ三十年ヲ以テ時効ヲ得ヘキノ(註一四〇)二項故ニ此等ハ二時効ニ關スル規定ニ讓リ茲ニ定メサルヲ以テ可トス

第二章 法人

(理由) 本章ニ於テハ法律ノ規定ニ依リテ人格ヲ享テヘキ者ニ關スル規程ヲ掲テ既成法典ハ人事編第五條ニ於テ只法人ノ成立ハ法律ノ認許ニ依リテ私權ノ享有ハ法律ノ規定ニ從フヘキノ原則ヲ示スニ止マリ取テ其成立ノ認許及私權ノ享有ニ關スル規定ヲ掲ケス蓋シ主トシテ之ヲ商法及特別法ニ讓リタルモノナリ佛國民法ニ於テハ法人ナルモノノ存在ヲ明記セシメテ只間接ニ之ヲ認ムルニ止マリ(條五三七乃至五四二)六二九九七二七二二〇四五二二二二二七其他ハ特別法令ノ定ムル所ニ依リ佛國民法ニ倣ヒタル諸國ノ法典ハ概ネ皆同一ノ體裁ヲ採用シ來リシカ最近公同心ノ發達及經濟上ノ進歩ニ因リ法人設立ノ必要大ニ増加シ從テ諸國ノ立法ハ特ニ法人ニ關スル通則ヲ纏括シテ之ヲ民法中ニ掲クルニ主義ヲ採ルニ至レリ現ニ伊國民法佛國民法ニ倣ヒタルニモ拘ハラス其第二條ニ於テ法人ノ存在ヲ明記シ白國民法佛國民法ニ倣ヒタルニモ第二章置キ(白草五三一万至五五五其他西班牙瑞西諸聯邦獨乙諸聯邦ノ民法北米紐育州及巴國逸帝國民法草案等ニ於テモ皆法人ニ關スル規定ノ爲メ第二章ヲ設ケタリ本案ニ於テハ法人ハ自然人ト相竝ヒテ私權ノ主体タルヲ以テ民法總則中ニ之カ規程ヲ掲クルノ必要ヲ認メ茲ニ其設立管理解散及私權ノ享有行使ニ關スル通則ヲ舉ケ之ニ關スル細則及特別種ノ法人ニ關スル規程ノ如キハ之ヲ特別法令ノ規定ニ讓リタリ

法人ニシテ自然人ノ集合體ヨリ成ルモノアリ無主財產ノ集合體ヨリ成ルモノアリ前者ヲ團體法人ト

レ後者ヲ財團法人トス然レトモ本案ニ於テハ獨逸民法草案ノユーリヒニモシテネゴロノ民法等ニ於ケルカ如ク敢テ之ヲ各別ニ規定スルコトヲ爲サズ蓋レ本案ノ規程ハ兩者ニ共通ケルモノ多キニ居ルヲ以テ之ヲ各別ニ規定スルトキハ徒ラ二條歐ヲ増シ勸モスレハ重複ニ涉ルノ恐アレハナリ

第一節 法人ノ設立

(理由) 本節ニ於テハ法人ノ設立ニ必要ナル條件ヲ定メ併セテ法人ノ權利義務ヲ明カシ以テ法人設立ノ效果ヲ示セリ

第三十三條

(理由) 本條ハ人事編第五條ヲ改正シタルモノナリ抑モ法人ハ自然ノ存在ヲ有スルモノニ非スレテ法律ノ創制ニ係ルモノタルハ古來ノ學說諸國ノ法制ノ均ク認ムル所ナリ近世ニ至リ往々法人ノ自然存在ヲ唱フルノ學者アリ又此主義ニ據リテ法律ヲ制定シタル國ナキニ非スト雖モ是レ必竟法人タル資格ヲ受テヘキ團體ノ存在ト其團體ノ受テヘキ法人タル資格トヲ混同シタルモノニシテ其團體ハ或ハ自然ニ存在セリト云フヲ得ヘキモ其團體カ人格ヲ得ルハ之ヲ法律ノ效力ニ歸セサルコトヲ得スレ本條ニ於テ仍ホ既成法典ノ主義ヲ採用シ法律ヲ規定ヲ以テ法人成立ノ基礎トシタル所以ナリ

人事編第五條申公、私ヲ問ハスノ文字ヲ省キタルハ之ヲ言フノ必要ナク且民法ニ於テハ公法人ニ關スル規定ヲ揭ケタルヲ以テナリ法律ヲ改メテ本法、又ハ特別法トセルハ前ニ云ヘル如ク既成法典ノ主ト

レテ特別法ニ讓ルノ主義ヲ改メテ茲ニ法人ニ關スル通則ヲ揭ケ同時ニ商法及ヒ特別法ニ依ルノ餘地アルヲ明示センカ爲メナリ認許ヲ改メテ規定ニ依リテ爲シタルハ法人設立ノ認許ニ關スル規定ハ次條以下ニ於テ別ニ之ヲ揭ケヘタ殊ニ認許ノ文字ハ或ハ一法人ヲ設立スル毎ニ一法律ヲ制定スルノ必要アルカヲ疑ハシメ且認許ハ既ニ存在スルモノヲ認ムルノ謂レテ法人ノ自然存在取リ得ルモノノ如ク見ユルヲ以テナリ又第五條ニ後半ヲ削リタルハ更ニ第四十五條ニ於テ之ヲ規定スルヲ必要トシタルハナリ

第三十四條

(理由) 法人ノ設立ニ關シ諸國ノ法制ノ採ル所ノ主義概シテ四アリ曰ク國長特許主義、各法人ノ設立ハ國家主長ノ特許ニ因ルモノトスル是レナリ曰ク法律特許主義、各法人ノ設立ハ特ニ之カ爲メニ制定シタル法律ニ因ルヘキモノトスル是レナリ曰ク準主義、法律ヲ以テ資格ヲ定メ之ニ適合スルモノハ法人タルコトヲ得ルモノトスル是レナリ曰ク自由設立主義、法人ハ當事者ノ意思ニ因リテ自由ニ之ヲ設立スルコトヲ得ルモノトスル是レナリ此四者各得失アリト雖モ純然タル特許主義ハ中世以來往來諸國ニ行ハレタルモ其狹隘ナルカ爲メニ近世公共心發達並ニ經濟上ノ進歩ニ因リ頗ル其不便ヲ感スルニ至レリ又自由設立主義ハ放任ニ失レテ公益上ノ團體ニ對スル國家ノ保護及ヒ監督ヲ缺クニ至ル故ニ今姑ク準則主義ト特許主義ト長所ヲ採リ商法ニ於ケル株式會社ノ設置其他社寺學校病院等ニ關スル現行法規ヲ參照シ法人ノ設立ニハ主務官廳ノ許可ヲ要スルモノトセリ

本條ニ於テ祭祀宗教慈善學問技藝ヲ列舉シテ其他ヲ略記セルハ單ニ公益ニ關スル社團及ヒ財團ト
汎稱スルトキハ其意義稍漠然ニ失スルノ嫌アルヲ以テ獨乙民法草案及ヒ瑞西實務法其他諸國ノ法典
ニ往見ル所ノ例ニ倣ヒ特ニ法人設立ノ目中最モ普通ナルモノヲ指示スルヲ便利ナリトセルカ故
ナリ本條ニ營利ヲ目トスル團體ヲ除外セルハ別ニ次條ニ於テ之ヲ規定スヘキヲ以テナリ

第三十五條

(理由) 既成法典ニ於テハ數人カ各自ニ配當スヘキ利益ヲ收ムル目的ヲ以テ設立セル團體ヲ民事會社
トシ民事會社ハ當事者ハ意思ニ因リテ法人ト爲スコトヲ得ルモトセリ故ニ人事編第五條ニ於テハ
主トシテ特別法ニ依ルノ主義ヲ採リ特リ營利ヲ目的トスル法人ニ關シテハ自由設立主義ヲ採リタル
モノノ如ク財產取得編第十八條ニ依レハ民事會社ヲ法人ト爲ス場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且商
事會社ニ關スル規則ニ從ヒ其契約ヲ公示スルコトヲ要スルモノトシ又同編第百二十條ニ依リハ資本
ヲ株式ニ分クキハ商法ノ規定ニ從フヘキモノトシ而シテ資本ヲ株式ニ分クサルモノニ對シテハ
只法人トナスコトヲ得ヘシト云フニ止マリ其資格權限ニ至リテ之ヲ契約ニ任セタルモノトシ
營利ノ團體ハ純然タル公益上ノ團體ト其目的ノ異ニスルカ爲メ各自其規定ヲ殊ニセタルモカラス而
シテ本條ニ於テ營利ノ團體ハ其資本ヲ株式ニ分クト分クサルト同クハラズ初モ法人ヲ組成セント欲
スルトキハ商事會社ノ規定ニ從フベシトセル理由ハ主トシテ(一)其目的ノ商事會社ニ同ク利益ノ
收得ニ在ルコト(二)法人タルトキハ公益上其事業ノ商事タルト非商事タルトニ拘ハラス均シク保護

及ヒ取締ヲ要スルコト(三)其設立、解散及ヒ社員間相互ノ關係並ニ第三者ニ對スル社員ノ權利義務
等ニ關シテ必要ナル規定ハ概シ商事會社ノ規定ニ同レキコト等ニ在リ但本條ノ規定ヲ農業、漁業其
他ノ非商事團體ニ關スル特別法令ノ效用ヲ妨ケサルヤ固ヨリ論ヲ俟マサルナリ

第三十六條

(理由) 法人ハ法律ノ創設ニ因リテ存スルモノナルヲ以テ其法人タル資格ハ只其法律ノ效力ヲ及ボス
境域内ニ止マルヘキ論ヲ俟タズ故ニ一國ノ法人ハ他國ニ於テ當然其人格ヲ保有スルコトヲ得且
法人設立ノ許可ハ各國ニ於テ主トシテ自國ノ公益ニ準テシテ之ヲ定ムルモノナルヲ以テ假令其國
ニ於テ公益ニ利アリトシテ設立ヲ許可シタルモノト雖モ他國ニ於テハ公益ニ反スルモノトシテ之ヲ
許可セサルコト無シトスヘカラス故ニ若シ多數ノ學者ノ說ヲ採リ外國ニ於テ認許シタル法人ハ當然
我那ニ於テモ其人格ヲ保有スルコトヲ得ヘシトスルモノトシカハ之カ爲メニ我公益ヲ害スルノ虞ナシトス
ヘカラス是レ蓋シ既成法典ハ概括ナル原則ヲ掲ケテ法律ハ外國法ヲ認許セスト云ヘル所以ナリ
既成法典ノ執ル所ノ主義ハ能ク法人ノ性質上ヨリ生ル法理ニ適合シタルモノト云フヘシ然レトモ
近世各國ノ交通及ヒ貿易ニ關スル狀況ハ此原則ヲ無制限ニ適用スルコトヲ許サズ是レ他ナリ現今外
國貿易ノ重要ナル部分ハ主トシテ法人ノ事業ニ屬スルヲ以テ若シテハ絕對的ニ右ノ原則ヲ適用ス
ルトキハ外國貿易ハ之カ爲メニ非常ノ障害ヲ蒙ルニ至リシ故ニ泰西諸國ニ於テハ既ニ數十年前ヨリ
右ノ原則ノ不便ヲ覺テ漸シ法律、條約又ハ裁判例ヲ以テ之カ除外例ヲ設ケ現今ニ至リテハ實際上右

ノ原則ハ却テ例外ナルカ如キ觀テ呈スルニ至レリ故ニ本條ニ於テハ法人ハ例外ニ成立ヲ有セザルヲ原則トシテ國際關係上又ハ經濟上之ヲ認許スルヲ必要トスル外國法人ハ除外例トシテ之ヲ認許スルコトヲ得ヘシトセリ

然ラハ其除外例ニ屬スル外國法人ノ種類如何ト曰國及ヒ其行政區劃ノ如キハ今日ノ國際關係上之ヲ法人トシテ認ムルヲ通常トシ又我ニ於テ之ヲ認許スルハ敢テ危害アルコトナシ又外國ノ商會社ハ若シ之ヲ認許セザルトキハ貿易上彼我共ニ非常ノ不便ヲ感スヘキハ必セリ故ニ此ニ一種ハ當然人格ヲ有スルモノトシ其他ハ特別ノ立法又ハ條約ニ依ルヘキモノトセリ

認許セラレタル外國法人ニシテ若シ我邦ニ敢テ成立セル同種ノ者ノ有スル能ハサル權利ヲ有スルコトヲ得ルモノトスレハ彼ニ厚クシテ却テ我ニ薄キノ嫌アルヲ免カレシ是レ彼我ノ權衡其宜ヲ得タルモノト云フコトヲ得ス故ニ本案ニ於テハ認許セラレタル外國法人ハ我邦ニ成立セル同種ノ者ト同一ノ權利ヲ有スルヲ常則トシ法律又ハ條約ニ特別ノ規定アル場合ヲ除外スルコトトセリ

第三十七條

(理由) 定款ハ社團法人ノ成立及ヒ活動ノ基礎タル規程ヲ載スヘキモノナルヲ以テ此種ノ法人ニ關スル最モ重要ナル事項竝ニ權利ノ發生スヘキ虞アル事項ノ豫メ之ヲ定款中ニ規定セザルコトヲ要ス大條ニ列記シタル事項以外ノ事ヲ定款中ニ規定スルハ固ヨリ本則ノ妨ケザル所ナリ

第三十八條

(理由) 一、定款ハ社團法人ノ基本規程ヲシテ以テ總會ノ權限ハ已ニ定款ノ範圍内ニ於テ存スルモノトス故ニ若シ定款ニ於テ其變更ノ議決權ニ關スル規定ヲ載スルトキハ是レ基本規程ヲ其變更ノ議決權ヲ總會ニ與ヘタルモノナリト雖モ若シ其規定ナキトキハ總會ニ定款變更ノ議決權ヲキハ當然ナリ然レトモ定款中ノ條項ハ業務ノ景況、時勢ノ變遷等ニ因リテ之ヲ改ムルノ必要アルヘキヲ以テ本條ニ於テ豫メ此等ノ場合ニ備ヘシカ爲メニ總會ニ其議決權ヲ與ヘタリ而シテ定款ノ變更ハ事重大トシルヲ以テ總社員ノ四分三以上ノ同意ヲ要スルヲ適當ト思惟セリ

二、法人ハ其性質ニ依リ或ハ其社員遠隔ノ地ニ散在スルコトアリ故ニ定款變更ノ如キ重大ノ事件ハ會議ニ出席セザル者ニモ其可否ヲ云フコトヲ得セザルヲ至當ナリトス是レ會議ニ出席セザル者ニモ書面ヲ以テ其同意ヲ表スルコトヲ得セザル所以ナリ

三、定款ノ條項ハ設立許可ノ條件ト爲レルヲ以テ若シ權ニ之ヲ變更スルコトヲ得ルモノトスレハ國家ノ監督權ハ爲メニ有名無實ナルニ至ラレ故ニ其變更ハ更ニ主務官廳ノ認可ヲ得ルニ非サレハ效力ヲ有セザルモノトセリ

第三十九條

(理由) 財團法人ノ設立ノ目的トスル寄附行爲ヲ以テ寄附ノ目的及ヒ寄附スヘキ財產ノ部分ヲ確定スルノ必要ナルハ言フヲ殊ニス又社團法人ニ於テハ社員總會ノ如キ機關アリテ理事選定ノ方法ヲ確定スルコトヲ得ヘシト雖モ財團法人ニ於テハ此ノ如キ機關ヲ缺クヲ以テ其始ニ於テ豫メ之ヲ定ムルニ

ハ財團存スルモ之ヲ管理スル者ナキヲ以テ爲メニ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ラザル故ニ寄附行為ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトセリ

第四十條

(理由) 生前處分ニ依ル寄附行為ヲ以テ法人ヲ設立セントスルトキモ若シ其寄附行為カ前條ノ揚ゲタル要件ヲ缺クカ爲メニ無効ト爲リタルトキハ寄附者ハ更ニ寄附行為ヲ爲スコトヲ得ルヲ常トスト雖モ行為カ還言ニ依ル場合及ビ生前處分ノ場合ニ於テモ寄附者若シ前條ノ要件ヲ定メズシテ死亡スルトキハ其目的及ビ寄附スヘキ財産ヲ確定セザリシトキ其行為ヲ無効トスルハ固ヨリ止ムヲ得サルノ事ナルモ若シ理事選任ノ方法ヲ定メサルカ爲メ其寄附行為ヲ無効トスルトキハ更ニ改メテ其要件ヲ具備スル行為ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ爲メニ寄附者ノ公義心ヲ空レウセサルヘカラス是レ本條ニ於テ除外例ヲ設ケタル所以ナリ

第四十一條

(理由) 寄附行為ハ純然タル單獨行為ニシテ無形ノ目的ノ爲メニ自己ノ財産ヲ分割シテ新ニ之ニ人格ヲ與ヘントスルモノナルヲ以テ贈與若クハ遺贈ノ場合ニ於ケルカ如ク他人ニ權利ヲ移轉スルモノトハ自ラ其性質ヲ異ニス然レトモ寄附者モ無償ニテ其財産ヲ處分スルノ點ニ於テハ贈與若クハ遺贈ノ異ナルコトナク又其寄附行為カ債權者又ハ相續人ニ及ホス影響ニ付テモ亦取テ贈與若クハ遺贈ノ場合ト異ナルコトナシ是レ本條ニ於テ其寄附行為カ生前處分ナルト死後處分ナルトノ區別ニ依リ贈與

若クハ遺贈ノ規則ヲ適用スルヘキモノトシタル所以ナリ

第四十二條

(理由) 法人ハ政府ノ許可ヲ得テ始メテ成立スルモノナルカ故シテ生前處分ヲ以テ寄附行為ヲ爲シタルトキハ其法人ノ成立スルト同時ニ其財産ハ法人ノ財産ノ組成スルモノトスルヲ當然トス然レトモ遺言ノ場合ニ於テハ其許可ヲ申請スル前ニ於テ還言既ニ其效力ヲ生スルヲ以テ還言ニ依ル寄附財團ハ胎兒ニ遺贈ヲ爲シタル場合ト酷ク相背タルモノアリ若シ其遺產ハ法人ノ始メテ成立スル時ヨリ其法人ニ移轉スルモノトスルトキハ其以前ニ於ケル果實其他ノ利益ハ惡ク相續人ニ屬スルモノトセザルコトヲ得ス果シテ此ノ如クナラハ獨リ寄附者ノ意思ニ反スルミナラス又相續人ニ於テハ其許可ノ申請ヲ遲延スルノ真ナレトスヘカラス故ニ今胎兒ノ權利ニ關スル諸國ノ法制ニ倣ヒ又法人ニ關スル二三法典ノ例ニ則リ法人ハ其還言ノ效力ヲ生シタル時ニ適リテ其財團ノ利益ヲ收受スルコトヲ得ルモノトセリ

第四十三條

(理由) 法人ハ固ト法律ノ創設ニ係リ或目的ノ爲メニ存スルモノナルヲ以テ其權利能力モ法律ノ規定及ビ其目的ノ範圍内ニ於テノミ存シ其限界以外ニ於テハ法律上ノ存在ヲ有スルコトナシ特別法ニ因リテ特ニ創設セラレタル法人ノ權利義務ハ主トシテ其規定ニ依リテ定マリ一般法若クハ特別法ノ一般規定ニ從ヒテ設立シタル法人ノ權利義務ハ主トシテ其定款若クハ寄附行為ニ依リテ定ムルモノ

ナリ而シテ法人ノ私法上ニ於ケル權利義務ハ財產ニ屬スルモノナルヲ通常トスレトモ特別法ニ因リ
或ハ財產以外ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フコトナレトスヘカラス故ニ本條ニ於テハ單ニ權利義務ト云ヘ
リ

中世以來在々法人ノ權利ヲ不當ニ擴張シ法人ハ自然ニ均キ能力ヲ有スルモノナリトシテモ
近世ニ至リテハ法人ハ限定能力ヲ有シ其能力ハ其設立ノ目的ニ因リテ限界セラル、モノナリトシ
ハ殆ト疑ヲ容ル、者ナキニ至レリ故ニ法人ノ行爲ニシテ其設立ノ目的ノ範圍外ニ在ルモノハ謂ハ
ル越權^{ultra vires}行爲ニシテ(四〇三三)之ヲ無効トスヘキ事固ヨリ論ヲ俟マサルナリ

第四十四條

(理由) 一、法人ノ行爲能力ハ法律ノ規定ニ因リモノナリ而シテ法律ハ固ヨリ法人ニ不法行爲ヲ爲ス
ノ能力ヲ與フルモノニ非ス且法人ハ意思ヲ有セサル無形體ナルヲ以テ不法行爲ヲ爲スコト能ハサル
モノナリトハ既ニ羅馬法典(1, 15, § 1, D. de personis, 4, 3)ノ認ムル所ニ原^{origin}ニシテ中古以來多
少此原則ノ當否ニ關シテ疑ヲ抱テ者アリト雖モ多數ノ學說及ヒ諸國ノ法制ハ概ニ此原則ヲ採用セリ
然ルニ此原則ノ適用ハ種々ノ弊害ヲ觀ルニ至レリ蓋シ法人ノ代理人ニシテ不法行爲アルトキハ其被
害者ハ其代理人ヲ訴フルコトヲ得ルモ法人ヲ訴フルコトヲ得ザルヲ以テ被害者ハ表面上法律ノ保護
アルモ理事又ハ其他ノ代理人ハ法人ニ比シ普通實力少ナキ者ナルカ故ニ實際上不利益ヲ蒙ルノ結果
ヲ生シタルヲ以テ近世ニ至リ諸國ノ法制竝ニ裁判例ハ漸ク此原則ヲ排斥スルニ至レリ學者ノ議論ハ

未ダ一定セスト雖モ立法論トシテハ概ニ皆法律ヲ以テ特ニ其責任ヲ定ムルコトヲ至當トスルニ至レリ斯
ノ如ク不法行爲ニ關スル法人ノ責任ニ付キテハ疑議ノ存スルモノアルヲ以テ公法ニ明文ヲ以テ之ヲ
確定スルコトヲ必要トセリ

二、本條ニ於テハ法人ノ代理人ノ行爲ヨリ損害ヲ生シタル場合ヲ二種ニ分別シ代理人カ其委任セラ
レタル業務ヲ履行スルニ際シテ過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其業務ヲ固ト法
人ニ屬スルモノナルニ因リ法人ノ資産ヲ以テ其賠償ニ充ツルヲ最モ適當ナルリトシテ之ノ第一項ニ規定
セリ然レトモ代理人カ擅ニ法人ノ目的ノ範圍外ノ行爲ヲ爲シテ之ヲ爲メ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキ
ハ假令法人ノ名ヲ以テシタルトキト雖モ其事業ハ固ト法人ノ業務ニ屬セザルモノナルヲ以テ其行爲
ヲ議決シ又ハ之ヲ實行シタル者ノ其責任ニ任スヘキヲ當然トシ之ヲ第二項ニ規定セリ

第四十五條

(理由) 一、法人ハ其團體ニ存スル自然ノ性質以外ニ人格ヲ有スルモノナルヲ以テ登記及ヒ公告アル
ニ非サレハ公衆ハ其資格ヲ知ルニ由アレ故ニ假令既ニ設立レタル法人ト雖モ其公示アルマデハ他人
ノ其事實ヲ知ルト否トニ拘ハラス之ニ對シテ法人タル效ヲ生セサルモノトセリ

二、法人ニ關スル登記ノ方法ハ別ニ之ヲ定ムヘキヲ以テ本條ニ於テハ其手續等ニ關スル規則ヲ掲ケ
ス而シテ本文ニ唯登記ヲ受ヘキコトヲ言ヒ敢テ公告ノ事ヲ言ハルハ他ノ其當事者ハ單ニ登記ヲ
請求スルニ止マリ公告ハ登記官吏ニ於テ其職務トシテ之カ手續ヲ爲スヘキモノト信スルヲ以テ登記

ノ時ヨリ直ニ何人ニ對シテモ法人ノ效力ヲ生セシムルヲ妥當トシタレハナリ
三、法人ノ主タル事務所ハ其業務ヲ本據ニシテ其業務ノ施行ニ最も關係多キ地ナルヲ以テ此地ニ於
テ登記ヲ爲サレムルハ其利害關係者ヲ保護スルニ於テ最も緊要ナリトス是レ第一項ヲ設ケタル所以
ナリ

第四十六條

(理由) 一、法人ニ登記ヲ要スルハ二、法人ノ性質上ヨリ來リ二ハ公益上ヨリ來ル法人ハ固ト有形ノ
存在ヲ有セサルモノナルヲ以テ登記ニ由リテ其存在ヲ明確ナラシムルノ必要ヲ法人ノ性質上ヨリ來
ルモノナリ其性質及ヒ組織ヲ明カシテ其信用ヲ保持シ併セテ公眾ノ利益ヲ保護スルノ必要ハ公益
上ヨリ來ルモノナリ本條ニ列舉シタル登記ヲ受クヘキ事項ハ皆前記ノ目的ニ必要ナル條件ニ外ナラ
サルナリ

二、登記ヲ受クヘキ事項ハ皆法人ノ存在及ヒ活動ノ要素タリ若シ前ニ公示シタル要素ニシテ變動ヲ
受クルコトアルモ登記及ヒ公告ヲ改ムルコトナクシハ登記ハ事實ト組織ヲ却テ人ヲ欺クノ媒タルコ
トアルヘシ是レ速ニ之ヲ訂正セシムルコトヲ要スル所以ナリ

第四十七條

(理由) 本條ハ第四十五條第一項及ヒ前條第二項ニ掲ケタル登記機關ノ例外ヲ示スモノナリ 拘官廳ノ
許可ヲ要スル事項ハ其許可アリタル時ヨリ成立スルモノナルヲ以テ其許可ノ日ヨリ登記機關ヲ起算

スヘキモノトスルトキハ連續ノ地ニ於テハ二週間若クハ一週間ノ短期ハ往々ニシテ許可書ノ到達以
前ニ經過スルノ虞ナレトモ是レ本條ノ例外ヲ設ケルヲ必要トセシメ所以ナリ

第四十八條

(理由) 事務所ノ移轉ヲ登記セシムルハ第四十五條同ノ理由ニ基ケリ而シテ新所在地ニ於テハ新
ニ法人ヲ設立スルトキト同一ノ登記ヲ爲サレムルハ他ナレ新所在地ニ於テハ始メテ法人ヲ設立ヲ登
記スルモノナレハナリ又同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於ケル移轉ニ於テハ更ニ其登記事項ヲ改ムル
コトヲ要セサルヲ以テ只其移轉ノ事實ヲモテ登記セシムルヲ以テ足レトス

第四十九條

(理由) 外國法人ヲ認許スル場合ハ第三十六條ニ於テ之ヲ限定セリ而シテ同條ノ規定ニ依リテ認許セ
ラレタル外國法人カ日本ニ於テ事務所ヲ設ケル場合ハ概シテ其法人ノ永ク日本ニ於テ其事業ヲ營マン
トスル場合ナルヲ以テ之ニ登記ノ義務ヲ負ハレメ其法人ノ存在及ヒ性質ヲ公示セシムルノ必要アル
ハ敢テ内國法人ニ異ルコト無シ

第五十條

(理由) 法人ノ事務所ハ其活動ノ本據ナルヲ以テ自然人ノ生活ノ本據ヲ其住所ト爲スト同一ノ理由ニ
基キ之ヲ法人ノ住所ト看做シ民事上住所ニ關スル規則ハ法人ノ性質ヲ許ス限リハ之ヲ竝ニ適用スヘ
キモノトスルヲ五箇條セリ本條ニ於テ主タル事務所ト云ヘルハ該所ニ於テ事務所ヲ設ケタル場合ニ

第五十二條

住所ニ關スル疑議ヲ生セザラシムルニシテカ爲メナリ

(理由) 法人ニ財産目錄ヲ備ヘレムルハ其財産ヲ鞏固ナラシムル且其運用ヲ豫防シ債務ノ監督及ヒ證明ノ便ニ供セントスルニ在リ然レバ目的トスル法人ハ總テ商會社ノ規定ニ從フヘキモノトスルヲ以テ商法第三十二條ニ從ヒ財産目錄ヲ備フルノ義務アリ故ニ本條ノ規定ハ專ラ公益ノ目的トスル法人ニノミ適用ス而シテ社員各自ノ利益ヲ目的トセザル法人ニ於テハ殊ニ其監督ヲ嚴ニ其財産ノ運用ヲ防止セザルヘカラス是レ本條ノ規定ヲ要スル所以ナリ

社團ヲシテ社員名簿ヲ作ラシムルハ其組織ヲ明カニセンカ爲メナリ

第二節 法人ノ管理

(理由) 本節ハ法人ノ機關ニ關スル事ヲ規定セリ法人ノ機關ハ之ヲ業務施行ノ機關ト業務監督ノ機關トニ別ク理事ヲシテ其業務施行ノ任ニ當ラシメ監督ヲシテ其業務監督ノ事ニ任セシムル前者ハ法人ノ法律上ノ代理人ニシテ其業務ヲ施行シ缺クヘカラスル機關ナルヲ以テ必ズ之ヲ置クコトヲ要スルモノトシ後者ハ業務ノ監督上必要アル場合ニ於テ之ヲ置クコトヲ得ルモノトセリ又社團法人ニ在リテハ社員ノ合同意思ヲ以テ法人ノ意思ト爲スコトヲ得ヘキヲ以テ社員ノ總會ヲ以テ法人ノ意思ヲ確定スヘキ最高機關トシ法人ノ業務ヲ指揮監督セシム又主務官廳ヲ以テ法人ノ最高監督府トシ各法人ヲシテ皆其監督ノ下ニ立タシメ以テ公益保護ノ目的ヲ貫徹セシムコトヲ謀レリ

第五十二條

(理由) 一、法人ノ限定セラレタル權利能力ヲ有スルモノナルモ其行為能力ニ至リテハ全ク之ヲ缺クモノナリ故ニ其權利ヲ行使セントナラハ必ズ之ヲ機關ヲ設ケザルヘカラス而シテ一ノ行為ヲ爲ス毎ニ特別ノ代理人ヲ選任スルヲ知キハ獨リ其繁ニ耐ヘサルノミナラス他人ヨリ法人ニ對スル行為ヲ爲スニ當リ當置ク代理人ナキトキハ其不便尠カラズ又社團法人ニ於テハ或ハ社員ヲ以テ當置代理人ト爲スコトヲ得ヘント雖モ通常其人自ノ多キヲ爲メニ或ハ事務ノ統一ヲ缺ク或ハ事業ノ滯滞ヲ來スノ不便アルヲ免レザルヲ以テ前記ノ二法ハ共通適當ナル方法ト稱スヘカラス是レ法人ニハ必ズ當置行為機關ヲ設ケルコトヲ要スル所以ナリ

二、理事ハ法人ノ事業ノ性質ニ依リ或ハ一人ナルヲ便利ナリトシ或ハ數人ナルヲ必要トスルコトアルヘキモ理事ノ代理權ハ通常總括代理ナルヲ以テ假令數人ノ理事アル場合ト雖モ一體ノ代理人ニシテ各理事ハ其全體ノ權限ニ依リテ動クヘキモノナリ且一箇ノ法人ニ數箇ノ總理代人アルコトヲ許ササルナリ但本條ノ規定カ特別法令ニ依リ法人ニ特別ノ代理人アル場合ヲ含マサルハ固ヨリ言フヲ突ク事ナリ

三、理事數人アル場合ニ於テハ其業務ノ取扱ニ關シ理事中意見ヲ異ニスルコト屢之アルヘキヲ以テ合致ニ之ヲ決定スルノ方法ヲ定ムサルヘカラス而シテ若シ其決定ハ理事總員ノ同意ニ依ルヘキモノトスルトキハ一ノ事務ニ付キ一人之ヲ非トスレハ他ノ理事盡ク之ヲ是トスルモ之ヲ決行スルコトヲ

得サルカ如キ不便アルヲ以テ通常ニ行ハルル開設ノ意思決定ノ方法ニ多數決ニ依ルノ外他ニ適當ナル方法アルヲ見ス現ニ獨乙民法第一讀會草案四四ニ於テハ總員ノ同意ヲ要スルヲ通則トセシメ第二讀會草案(二七)ニ於テ之ヲ改メテ多數決ノ方法ヲ採ルニ至リシハ蓋シ此理由ニ基キレモノナリ而シテ理事總員ノ同意ヲ要スヘキ場合或ハ各理事カ業務ヲ分擔シ理事全體ノ議決ヲ要セザル場合等ノ如キハ定款ヲ以テ之ヲ本條ノ規定ヨリ除外スルノ餘地アルヲ以テ多數決ノ議定法ノ敢テ實際ニ不都合ヲ生スルノ虞アラサルナリ

第五十三條

(理由) 理事ハ法人ノ法律上ノ代理人ニシテ其權限ハ總括代理ナルヲ常則ニシテ苟モ其本人タル法人ニ屬スル權利ハ盡ク之ヲ行使スルコトヲ得ルモノト然レトモ其代理行為ハ定款ノ規定ノ附行為ノ趣旨又ハ總會ノ決議ニ依リテ制限セラルルコトアリ此場合ニ於テ理事ハ其總代理人タルノ故ヲ以テ其制限ニ服セサルコトヲ主張スルヲ得是レ但書ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第五十四條

(理由) 法人ハ本來無能力者ナルヲ以テ理事ノ代理權ハ其法人ノ目的ノ範圍内ニ於ケル行為ニ付テハ無制限ナルヲ本則トスヘキモノナリ故ニ若シ定款ノ規定尙附行為又ハ總會ノ議決ヲ以テ或種類ノ行為ヲ禁止ス又ハ或行為爲スル條件若クハ方法ヲ定ムルカ如キ制限ヲ設ケルコトアルトキハ其制限ハ前條ニ規定セルカ如ク固ヨリ理事ヲ羈束スヘキモノナリト雖モ第三者ハ其效力ヲ及ボスヘキ

モノニ非ス故ニ近世諸國ニ於テハ之ニ關レ種々ノ規定ヲ設ケタリト雖モ要スルニ次ノ二種ノ一ニ出デサルモノノ如シ或ハ(一)其制限ヲ登記セシメ第三者ニ對シ總テ之ヲ有效ナリトスルヲアリ或ハ(二)取引ノ安全ヲ圖リ第三者ヲ保護セシカ爲メニ其制限ハ全ク無効ナリトスルモノアリ又或ハ(三)其當事者ノ善意惡意ヲ區別シ其制限アルヲ知ラスレテ取引爲シタル者即チ善意者ニ對シテハ之ヲ無効トシ其制限アルヲ知テ取引爲シタル者即チ惡意者ニ對シテハ之ヲ有效トスルモノアリ前舉三種ノ規定中第一種ノ如キ規定ニ依リハ法人ト取引爲サントスルトキハ登記ヲ檢閲スルノ必要アルカ如キ煩アリ又此煩ヲ厭フノ第三者ハ爲メニ損失ヲ被ムルノ危險アルヲ以テ法人ノ保護ニ厚クシテ第三者ノ保護ニ薄キノ弊アリ又第二種ノ規定ニハ定款ノ規定尙附行為又ハ總會ノ議決ニ雖モ理事ノ推恣ヲ制シテ代理權ノ行用ヲシテ其適度ヲ得ルモノト能ハサルヲ以テ第三者ノ保護ニ厚クシテ法人ノ保護ニ薄キモノト云ハサルコトヲ得ス特に第二種ノ規定ノ法人ニハ其代理權ニ制限ヲ加フルコトヲ許スト雖モ之ニ由リテ善意者ヲ害スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ最モ衡平ヲ得ルモノト稱スルコトヲ得ヘシ是レ本案ニ於テ第二種ノ規定ヲ採リシ所以ナリ

第五十五條

(理由) 前二條ニ於テ述ベタル如ク理事ノ權限ハ包括的ノモノナルヲ以テ其委任事件ニ屬スル代理行為ヲ悉ク自ラ取扱フノ難事ニシヤ論ヲ突クヌ然レトモ獨乙民法草案ノ如ク理事ノ外ニ特別ノ代理人ヲ置クコトヲ得ルモノトスレハ法人ノ代表權一途ニ歸セス第三者ニ對シテハ殆ド理事ノ代理權制限

ト同一ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ本案ニ於テハ復代理ニ關スル規定ニ從ヒ理事ニ他人ヲシテ自己ニ代
ハリテ特定ノ行為ヲ爲サレムルコトヲ許セリ唯之ヲ代理ノ部ニ讓ラステ茲ニ掲ケル所以ノモノハ
復代理ニ關スル規定ニ依リハ委任事件ノ全部又ハ一分ヲ代理セラル得ヘシトスルコトアルヘキ
モ茲ニハ此ノ如キ包括的ノ復委任ヲ許サスレテ一個又ハ數個ノ行為ヲ單獨的ニ指定シテ代理セム
ルコトヲ許スニ止マルヲ以テナリ

第五十六條

(理由) 理事ノ死亡、辭任、解任其他ノ原因ニ依リ理事中ニ缺員ヲ生レ又ハ理事全ク缺ビシタル場合ニ
於テ其後任者ヲ選任スルニハ前條ノ規定ニ依リ定款又ハ寄附行為ニ定メタル手續ヲ踐ムヘキヲ以テ
或ハ直チニ其人ヲ得難ク爲メニ其選任ヲ遷延スルコトナレトモ此場合ニ於テ法人又ハ他人ニシテ
一定ノ期間内ニ爲スヘキ行為アルモ理事ヲ缺クカ爲メニ之ヲ爲スコト能ハサルカ如キコトアルヘキ
ヲ以テ本條ニ於テハ此ノ如キ場合ニ於テ不都合ヲ生セザラシメシカ爲メニ利害關係人又ハ檢事ハ假
管理人ノ選任ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ

第五十七條

(理由) 本條ノ專ラ法人ト理事トノ間ニ利益ヲ抵觸アル場合ニ於テ理事ノ權力濫用ヲ防止シシカ爲メ
ニ設ケタルモノナリ抑代理人カ自己ノ資格ヲ以テ其委任者ト取引ヲ爲スハ固ヨリ法律ヲ禁セサル所
ナリト雖モ法人ノ場合ニ於テハ其本人タル者全ク意思ヲ缺ケルヲ以テ其利益ノ相反スル場合ニ於テ

張シ得ヘキヲ以テ此規定ニ依リテ法人、理事共ニ其利益ヲ受クルモノト謂フヘシ
理事ハ一方ニ在リテハ法人ノ相手方タリ又一方ニ在リテハ法人ノ代理人ト爲リ一身主客ノ地位ヲ兼
ヌルカ如キハ最モ忌避スヘキノ事ナリ故ニ茲ニ之ヲ禁止シ特別管理人ヲ以テ之ニ代ハラシムルコト
トセリ蓋シ法人ハ之ニ依リテ其取引ノ安全ヲ得理事ハ之ニ依リテ嫌疑ヲ免ル本分ニ自己ノ權利ヲ主
張シ得ヘキヲ以テ此規定ニ依リテ法人、理事共ニ其利益ヲ受クルモノト謂フヘシ

第五十八條

(理由) 理事ノ職務ハ頗ル廣汎ニシテ或ハ擅横ノ弊ナキコトヲ保セサルニ法人ハ固ト意思ヲ有セサル
モノナラヲ以テ自ら其業務ヲ施行ヲ監督スルコト能ハス且營利ノ目的トセサル社團法人ニ於テハ社
員ハ動モスレハ理事ヲ信任シテ自ら其業務ヲ監督スルコト少ク殊ニ財團法人ニ於テハ屢其業務ノ施
行ヲ監督スヘキ者ナキコトアルヲ以テ必要ナル場合ニ於テハ定款ノ寄附行為又ハ總會ノ決議ヲ以テ
監事ヲ置クコトヲ得ルモノトセリ而レテ之ヲ定款ノ寄附行為又ハ總會ノ決議ニ任セシメテ特ニ之
ヲ規定スル所以ノモノハ法律上ノ代理人タル理事ノ職務ヲ監督スヘキ重任ヲ負フ者ノ私設ノ役員ト
セシメテ之ニ法律上ノ位置ヲ與フルヲ適當ト認メタルヲ以テナリ

第五十九條

(理由) 一、本條ハ監事ノ職務ヲ規定レ之ヲ分チテ財産ノ監査及ヒ業務施行ノ監査トセリ而シテ單ニ
之ヲ監視、檢査ニ止ムル所以ノモノハ監事ノ職務ト理事ノ職務トノ分界ヲ明カニシテ互ニ相抵觸スル
コト勿ラシメンカ爲メナリ

出シテ反對者ノ不知ノ間ニ於テ之ヲ議定セシムルカ如キ弊ナレトスヘカラス然レトモ若シ商法第百九十九條若國民法獨乙商法等ノ規定ノ如ク豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ非レハ議決スルコトヲ得ストルトキハ項末ノ事項ト雖モ之ヲ議定スルコトヲ得ス爲メニ或ハ不便ヲ生スルコトナキヲ期レ難シ然レトモ表決法ノ如ク法律ヲ以テ通知ヲ要セサル事件ヲ示スモ亦須雜ニ渉ルノ嫌アリ以テ本條但書ニ於テハ定款ヲ以テ除外例ヲ設ケルコトヲ得ルモノトセリ

第六十五條

(理由) 社員ノ議決權ハ或ハ出資ノ多寡ニ因リ或ハ發起者タルト贊同者タルトノ區別ニ從ヒ等差ヲ立テ或ハ或社員ニ特權ヲ與フル等ノ事アリ又或ハ女子幼者罪囚責任意納者等ニ議決權ヲキヤモノトスルコトアリ雖モ若シ定款ニ此ノ如キ規定ヲ設ケザレトキハ各社員皆議決權ヲ有レ且其議決權ノ平等ナルヲ以テ最モ穩當ナリトス故ニ本條ニ於テハ表面ニ於テ議決權ノ平等ナルコト竝ニ各社員皆議決權ヲ有スルノ通例ナルコトヲ示レ裏面ニ於テ事情ニ依リ定款ヲ以テ等差ヲ設ケルコトヲ得ル旨ヲ示セリ

第六十六條

(理由) 法律上ノ行爲ノ當事者間ニハ利益相反スルコトアルヲ通常トスルヲ以テ社員若レ一方ノ當事者タルトキハ之ニ關レテ公平ナル判斷ヲ下スコト能ハサルノ虞アリ且若シ社員ノ多數カ其當事者ナレトキハ其危險殊ニ多シトス故ニ其社員ハ議決權ヲ有セザルモノトセリ

第六十七條

(理由) 法人ハ總テ公益ニ關シ其業務ノ景況如何ハ國家ノ治安及ヒ經濟ニ影響ヲ及ビ公眾ノ利害ニ關係ヲ有スルコト頗ル大ナルヲ以テ行政上ノ監督ヲ要スルモノトス
本條ノ法人ノ設立ニ主務官廳ノ許可ヲ受クシメ又主務官廳カ許可ヲ取消ヲ爲スコトヲ得ルノ條ト照應シテ法人ノ設立ヨリ生スル濫弊ヲ防制スルノ旨意ニ出テタルモノナリ

第三節 解散

(理由) 本節ニ於テハ法人解散ノ原因ヲ列載シタル法人ノ財産ノ歸屬スルキ者ヲ定メ又清算事務ノ範圍及ヒ清算人ノ職分ヲ示シ且債權者ノ債務者及ヒ歸屬權利者ノ保護ニ必要ナル規定ヲ掲グ

第六十八條

(理由) 一、本條ハ法人解散ノ場合ヲ列記シタルモノナリ近世諸國ノ民法ニ於テ法人解散ノ原因トスルモノ概テ本條ニ掲ケタル六箇ノ事由ニ出テス蓋シ第一項第一號及ヒ第二項第一號ハ法人ノ設立者又ハ其社員ノ意思ニ基キタル解散ノ場合ヲ示シ第一項第二號及ヒ第二項第二號ハ法人ノ性質又ハ其業務ノ狀況ヨリ生スル自然ノ結果ニ因リ解散ノ場合ヲ示シ第一項第四號ハ國ノ監督權ヨリ生スル解散ノ場合ヲ示シタルモノナリ

二、定款又ハ章程行爲ヲ以テ定メタル解散事由ハ存立時期ノ經過其他總テ豫メ定款中ニ掲ケタル解

散ノ原因ヲ包含ス故ニ第二項第二號及ヒ第二項ノ如キ原因ニレテ若シ定款ニ特別ノ規定アルトキハ
之ニ依ルヘキハ論ヲ突ク

三、社團法人ガ任意ノ解散ヲ爲ス場合ハ次條ニ於テ之ヲ説明スヘシ

四、法人ハ總テ或目的ヲ達スル爲メニ存スルモノナルヲ以テ其目的タル事業ヲ成功シ又ハ法令ノ變
更其他世態ノ變遷等ニ因リ其事業ヲ成スコト能ハサルニ至ルトキハ自然ノ結果トシテ解散スヘキモ
ノナリ

五、社團法人ノ社員ガ死亡、退社等ニ因リ全ク存在セザルニ至リタルトキハ其法人ノ解散スヘキヤ
論ヲ突ク或ハ社員ガ一人ニ減少シタルトキハ社團法人タルノ性質ヲ失フモノナルヲ以テ其法人ハ
當然消滅スヘキモノナリトス者アリト雖モ社團法人ハ總テ或目的ヲ爲メニ存スルモノニシテ一旦
設立シタル以上ハ全ク社員各自トハ別箇ナル無形ノ人ヲ生スルモノナルヲ以テ法人ノ設立ニハ散人ノ
社員アルコトヲ要スルモノトスルモ其存在ニハ必スレモ之ヲ要スルモノトスヘカラス故ニ假令其社
員ハ漸次減少シテ僅ニ一人ヲ殘スニ至ルモ苟モ其目的タル事業ヲ成勇ニシテ妨ケキ以上ハ之ヲ解散
セシムルノ理由アルヲ見ス故ニ本案ニ於テハ社員ノ全ク存在セザルニ至ルコトヲ以テ解散ノ原因ト
セリ

第六十九條

六、法人ノ破産及ヒ政府ガ其設立ノ許可ヲ取消ス場合ハ別條ニ於テ之ヲ説明ス

(理由) 社團法人ハ其社員ノ存セザルニ至リタルトキニ於テ消滅スヘキモノナリトシテハ總社員一致
ノ決議ヲ以テ法人ヲ解散スルコトヲ得ヘキハ固ヨリ當然ノ事ナリトス是レ他ヲ其決議ハ總社員ノ
退社ニ均レキヲ以テナリ然レドモ社員ノ多數ガ其解散ヲ必要ナリト認ムル場合ニ於テ猶承認ヒテ
其事業ヲ繼續セシメント欲スルモ頗ル困難ナルコト多カラン然レドモ亦一方ニ在リテハ商法ノ規定
ノ如ク單ニ株主ノ半數以上ニシテ株主ノ半額以上ヲ代表スルモノノ出席シ其議決權ノ過半數ニ依リテ
解散スルコトヲ得ルモノトスルハ(商)一五四二項、二〇三三ヲ公益ノ目的トスル法人ニ適用セハ
些シク輕易ニ失スルノ虞アリ是レ本條ニ於テハ四分三以上ノ多數ヲ承諾ノ要スルモノトセル所以ナ
リ

第七十條

(理由) 公益ヲ目的トスル法人ト權利ヲ目的トスル法人トハ其全業ノ事業ヲ異ニスト雖モ其債務ヲ完
済スルコト能ハサル場合ニ於ケル處置ニ付テハ二者ノ間ニ區別ヲ設ケヘキ理由アルヲ觀ス故ニ本法
中特ニ其規定ヲ掲ケシレテ破産ニ關スル一般ノ規程ヲ適用スヘキモノトセリ

第七十一條

(理由) 一、法律ガ特ニ法人ナル權制ヲ設ケテ無形體ニ權利義務ノ主格タルコトヲ許ス所以モノハ其
公益ヲ進捗スヘキモノナルヲ以テナリ故ニ苟モ公益ニ反スルコトアルトキハ法人ハ其存在ノ理由ヲ
失フモノト謂ハサルコトヲ得ス若シ法人ニレテ慈善、技術等ヲ名トシテ實ハ社員ガ私利ヲ爲ムノ機

關タリ又ハ宗教、學問等ノ目的トスルモノニシテ政治上ノ事業ヲ爲レ其他治安ヲ害シ風俗ヲ紊ルカ
 如キコトアルトキハ國ハ其監督權ニ依リ其許可ヲ取消レ之ヲ解散セシムルコトヲ得ヘキモノトス
 二、商會社及ヒ之ニ准スヘキ營利ノ法人ノ事業ハ公安又ハ風俗ヲ害スヘキ虞アルトキハ商法規
 定ニ依リ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得ヘキモノナリト雖モ本法ニ依ルベキ法人ハ
 主トシテ行政ノ管轄ニ屬スル事業ノ目的トスルモノナルヲ以テ諸國ノ法制ノ多ク執所ノ主義ニ隨
 ヒ之ヲ主務行政官廳ノ職權內ニ屬セシメタリ

第七十二條

(理由) 法人ハ自然人ノ如ク相續人ヲ有スル者ニ非ズ且遺言ヲ爲ス能力ヲ有セサルモノナルヲ以テ
 其解散ノ場合ニ於ケル遺產ノ處分ハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ規定セサルヘカラス本案ニ於テハ法人ノ創立
 者ノ意思ニ基キテ遺產歸屬ノ順位ヲ定ムルノ主義ヲ採リ第一ニ定款ノ規定ニ依リ指定セラレタル人
 ノ歸屬權利者トシテ次ニ共法人ノ目的ノ類似セシメルノ爲メニ其遺產ヲ處分スルコトヲ許シ終リニ國
 庫ニ歸屬スヘキモノトセリ

一、法人ノ創立者カ定款中ニ歸屬權利者ヲ指定シ又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定ムルトキハ法人ノ遺產
 ハ共者ニ歸屬スルヲ當然トス是レ他テレ法人ノ創立者カ創立行為ヲ以テ或ハ公益事業ノ存続期間ハ自
 己ノ財產ヲ其目的ニ供シ共事業ノ廢止シタル後ハ之ヲ豫定ノ人ニ與ヘントスル意思ヲ表シタルトキ
 法律カ之ニ效力ヲ與フルモ公益ヲ取テ妨ナキノミナラス此ノ如ク公益心ヲ有スル者ノ意思ヲ保護ス

ルハ公益事業ノ發達ヲ獎勵スルノ一途アレハナリ

二、營利ノ法人解散ノ場合ニ於テ若シ定款ニ歸屬權利者ヲ定メサルトキハ其遺產ハ創立者若クハ共
 子孫又ハ社員ニ復歸スルヲ當然トスヘキカ如シト雖モ當然タル公益ノ目的トスル法人ニ於テハ其創
 立者又ハ社員ハ各公共ノ利益ノ爲メニ自己ノ財產ヲ讓與シタルモノナルヲ以テ之ヲ其出資者又ハ其
 子孫ニ還付スルハ却テ其本意ニ背クモノト言ハサルヲ得知シ若シ法人ノ遺產ヲ創立者又ハ社員ニ
 分配スルコトヲ得ヘントスルトキハ或ハ私利ノ爲メニ公益事業ヲ廢止スルルカ如ク弊ヲ生スルコトナ
 キヲ保スヘカラス然リト雖モ直チニ其財產ヲ國庫ニ没入スルモノ亦創立者ノ意思ニ反スルノ虞アルヲ
 以テ本案ニ於テハ成ルヘク創立者ノ意思ヲ貫徹セシムルカ爲メニ其遺產ヲ類似ノ目的ノ爲メニ處分
 スルコトヲ許シ或ハ之ヲ資本トシテ新ニ法人ヲ設立シ或ハ之ヲ公益事業ニ寄附スルコトヲ許シモノ
 トセリ

三、法人ノ財產ハ固ト公益ノ目的ニ供シタルモノナルヲ以テ若シ前二項ニ掲ケタル歸屬權利者ナキ
 トキハ其遺產ヲ國庫ニ收入シテ一般ノ國用ニ供スルハ蓋シ其創立者ノ意思ニ適合スルモノト謂ハサ
 ルヘカラス或ハ一地方ノ利益ヲ目的トシタル法人ト一般ノ利益ヲ目的トシタル法人トヲ區別シ前者
 ノ遺產ハ其地方ニ收入シ後者ノ遺產ハ國庫ニ收入シ且成ルヘク之ヲ其法人ノ目的ノ類似セシメ
 使用スヘキノ規定ヲ設ケル國アリト雖モ此ノ如キ規定ハ徒ニ國庫若クハ地方庫ニ用途指定ノ費目
 ヲ増シ或ハ煩雜ヲ招クノ虞ナシトセス故ニ恰モ無相續遺產ノ國庫ニ歸屬スル場合ノ如ク無主物ノ國

庫ニ屬スルノ原則ニ據リテ之ヲ國庫ニ收入シテ一般ノ國用ニ供スルノ節ニシテ且創立者ノ意ニ違フノ
優レルニ如カサルナリ

第七十三條

(理由) 法人ハ解散ニ因リテ消滅スルモノナリ故ニ清算人ハ固ヨリ法人ノ代理人タル資格ヲ有スルモノ
ノニ非ズレトモ特ニ法律ノ規定ニ依リテ解散シタル法人ノ殘務ヲ整理スルノ職務ヲ有スルモノナリ然
レトモ若シ此法理ヲ貫徹セント欲スルトキハ次に掲グルル如キ種々ノ不都合ヲ生ズヘキヲ以テ近世
諸國ノ立法ハ實際上ノ必要ヨリ本條ノ如キ規定ヲ設クルニ至レリ

一、若シ清算人ハ其職務上自己ノ資格ヲ以テ清算ヲ行フモノナリトスレバ解散シタル法人ノ住所ハ
既ニ全ク消滅シタルモノナルヲ以テ住所ニ於テスルべき債務ノ辨濟ハ法人ノ住所ニ於テセズレテ清算
人ノ住所ニ於テセサルヘカラス又法人ノ普通裁判籍ハ其解散ニ因リテ消滅スルモノナルヲ以テ清算
事務ノ終結ニ至ルマデ之ヲ保續スルコトヲ得ス爲メニ清算事項ニ係ル訴訟ハ法人ノ裁判籍ニ於テセ
スレテ清算人ノ裁判籍ニ於テセサルヘカラス是等ノ場合ニ於テ故人ノ清算人アルトキハ其不便宜ニ
大ナリトス

二、社團法人解散ノ場合ニ於テハ其清算ニ付キ社員ノ利害ノ關係ヲ有スルコト頗ル厚キモノナルヲ
以テ社員ノ總會ヲ以テ直接ニ清算ヲ監督セシムル最モ便利ナリトス然レトモ法人既ニ消滅シタル
モノトスルトキハ當然共社員ナルモノ存スルコトナキヲ以テ若シ總會ヲ必要トスルトキハ必ス其法

人ノ存在セルモノト規定セサルヘカラス商法ニ於テハ暗ニ本條ノ主義ヲ採リタリト雖モ之ヲ法文ニ
明記セズレテ單ニ清算人ハ會社ヲ代理スヘキコトヲ言ヒ又總會ノ事務ヲ扱ケタルヲ以テ清算人ハ既ニ
消滅シタル會社ヲ代理シ又既ニ消滅シタル會社カ總會ヲ開キ決議ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ高職ヲ居
スルニ至レバ其他清算人カ清算ノ目的ノ爲メニ新ニ取引ヲ爲シ又ハ訴訟行為ヲ爲スカ如キ場合ニ於
テモ自己ノ資格ヲ以テスルモノトスルヨリハ寧ろ法人ノ代理人タル資格ヲ以テスルモノトセシコト
能ク實際ニ適合シ且當事者ノ爲メニ便利ナルハ取テ論ヲ究テ要スルニ本條ノ規定ハ清算人ノ行為
ニ關シテ生ズヘキ種々ノ疑問ヲ解クノ標準ト爲リ爲メニ之ニ關スル詳細ノ規定ヲ設クルノ煩子省ク
ノ利アリト信ス

第七十四條

(理由) 法人解散スルトキハ理事ハ當然其法律上ノ代理人タル資格ヲ失フヲ以テ法命ニ依リ特ニ之ヲ
定メテシレハ其職務ヲ結了スヘキ者ナレ商法ニ於テハ高事會社ノ社員ノ選定スキモノトスレトモ
此規定ハ財團法人ノ解散及ヒ社團法人カ社員ノ缺亡ノ爲ニ解散スル場合ニ適用スヘカラス故ニ法
人ノ解散ト共ニ管理人ハ其資格ヲ變シテ置テニ清算人ト爲ルモノトスル最モ便利ナリトス然レト
モ理事或ハ清算人ノ職務ニ適セサルコトアルヘキヲ以テ本條ニ於テハ定款ヲ附行爲又ハ總會ノ議
決ニ依リ他人ヲ選定スルノ餘地ヲ存セリ而シテ破産ノ場合ヲ除外セルハ此場合ニ於テハ裁判所カ職
務上破産管理人ヲ選任スヘキヲ以テ別ニ清算人ヲ置ク必要ナキヲ以テナリ

第七十五條

(理由) 前條ニ於テ清算人タルヘキ者ヲ指定シタリト雖モ尙ホ或ハ清算人ナキ場合ヲ生ズコトナシトスヘカラス例ヘハ社團法人ノ社員缺亡ノ爲メ解散ヲ爲ス場合理事カ清算人ト爲リタル後死亡シタル場合定款ニ於テ之ニ關スル別段ノ規定ナク且社團ノ總會ニ於テモ其定款ヲ爲ササル場合ノ如キ是レナリ又清算人ノ死亡、辭任ヲ解任其他ノ原因ニ由リ清算人全ク缺亡シ又ハ其定款ニ缺員ヲ生ズルトキ第七十三條ノ規定ニ依リ法人ハ尙ホ存續スルモノト看做シ得ヘキヲ以テ其後任者ノ選任スルトヲ得ヘシト雖モ財團法人ノ場合又ハ社團法人カ社員ノ缺亡ノ爲メニ解散セル場合等ニ於テハ其後任者ヲ選任スヘキ者ナキコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ清算人缺亡ノ爲メ法人ノ遺產ヲ管理、處分スル者ナキトキハ獨リ債權者、債權權利者等ノ損害ヲ蒙ルヘキノ虞アルノミナラス亦一般ノ經濟上ニ害アルモノト云ハサルヲ得ス是レ本條ニ於テ裁判所ハ自働的ニ清算人ヲ選任スル職權ヲ有スルモノトセル所以ナリ

第七十六條

(理由) 本條ノ重要ナル事由ハ清算人カ其職權ヲ濫用シ其職務ヲ曠廢シ其他職任ニ堪ヘサル重大ノ理由アルヲ言フ是等ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其命令ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ其命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ許シタルハ其事ヲ清算人ノ名義及ヒ法人ノ利害ニ大ナル關係ヲ有スルコトアルヘキヲ以テナリ

第七十七條

(理由) 一、法人ハ固テ法律ヲ擬制ニ依リテ設ケタルモノナラシメテ其存立ノ有無ハ登記其他ノ公示法ニ依リニ非ラレハ之ヲ確知スルコト能ハス故ニ其設立ニ登記ヲ要スルカ如ク其解散モ亦登記ヲ要スヘキモノトセリ
二、商法ニ於テハ會社解散ノ登記ヲ受ケルルヲ以テ會社ノ取締後ノ任トシ清算人ノ職務ハ登記ノ時ヨリ始マルモノトセリ然レトモ登記ヲ受ケルハ法人解散後ノ事務ニ屬スルモノナルヲ以テ之ノ清算人ノ任トスルヲ適當トス殊ニ社團法人ノ社員存在セザルニ至リ解散セル場合ニ於ケルカ如キハ之ヲ理事ノ職務トスルコト能ハサルナリ
三、本條ヨリ破産ノ場合ヲ除外セルハ其公示ハ破産法ノ規定ニ從フヘキモノナルヲ以テナリ登記ノ期間ヲ七日内トセルハ其速カナランコトヲ欲シテナリ
四、解散ノ原因ハ解散ノ事實ヲ明カニシ解散ノ年月日ハ清算事務ノ開始、權利ノ移屬等ノ時ヲ明カニシ清算人ノ氏名、住所ハ職務ヲ處理スル人ヲ明カニスルモノナルヲ以テ皆之ヲ登記ノ必要事項トセリ主務官廳ニ提出ヲ爲サシムルハ法人ハ固テ主務官廳ノ許可ニ由リテ設立シ其監督ニ屬スルモノナルヲ以テナリ

第七十八條

(理由) 一、本條ニ於テハ清算事務ニ屬スル事項ノ範圍ヲ定メ第一項ニ於テハ清算人ノ職務ヲ掲ケテ
 二項ニ於テハ其職務ヲ掲ケ抑清算人ハ法人ノ終局事務ヲ整理スヘキモノナルヲ以テ既ニ舊手シタル
 法人ノ事務ヲ了結シ其債權ヲ取立テ其債務ヲ辨濟シ其殘餘財産ヲ歸屬權利者ニ引渡スヲ以テ其職務
 トス商法第百二十條其他外國ノ法律中ニ於テハ往々特ニ換價處分ヲ清算事項一トスルモノアリト
 雖モ是レ必竟債務ノ辨濟及ヒ分割ノ爲メニ必要ナルコトアル事ニ過キズシテ之ヲ以テ直チニ清算
 事務ニ屬スルモノトスルハ聊カ其當ヲ得ス營利ノ法人ニ在リテハ其目的固ク金錢上ノ利益ニ在ルヲ
 以テ或ハ其殘餘財産ヲ賣却シテ其代價ヲ社員ニ分割スルヲ便利ナリトスルコト多クハセント雖モ公
 益ヲ目的トスル法人ニ在リテハ或ハ第七十二條ノ規定ニ依リ其殘餘財産ヲ類似ノ目的ニ寄附スルコ
 トアルヘク又兼メ歸屬權利者ヲ定メタルトキト雖モ營利ノ法人解散ノ場合ニ於ケル如ク必ズレモ其
 殘餘財産ヲ多數ノ社員ニ分割スルニ非サルヲ以テ之ヲ現狀ノ儘ニテ歸屬權利者ニ引渡スヘキ場合影
 レトセス故ニ本案ニ於テハ換價處分ヲ清算ノ必要事項中ニ掲ケス若シ之ノ必要ナリトスルキハ第
 二項ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ

二、第二項ハ清算人ノ職務ヲ概括ノ二規定シ既成法典及ヒ商法ノ如ク清算人ノ職權ヲ列記スルノ方
 法ニ據ラス總テ第一項ニ掲ケタル職務ニ必要ナルコトハ清算人之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ故ニ
 前二舉ケタル換價處分ハ言フヲ俟タズ苟モ清算ノ目的ニ必要ナルトキハ新ニ取引ヲ爲シ又ハ訴訟行

第七十九條

爲ラ爲シ和解契約、仲裁契約ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ總テ此條文中ニ包含スルモノトス
 (理由) 本條ハ清算事項中債務ノ辨濟ニ必要ナル手續ヲ定メ且債權者ノ利益ヲ保護スルヲ目的トスル
 モノナリ公告ノ期間ヲ六十日以内トセルハ清算人ノ財産ノ現況ヲ取調フルノ猶豫ヲ與フコトヲ要ス
 ルヲ以テナリ債權請求人申出期間ヲ六十日以上ト知レシメ且債權者ニ特別ニ催告ヲ爲サシムルハ皆
 債權者ノ利益ヲ保護セシカ爲メナリ知レシメ債權者カ催告期間内ニ申出ヲ爲サシムルキハ清算
 期除スルハ三回以上ノ公告六十日以上ノ催告期間ヲ以テ債權者ニ充分ノ注意ヲ與ヘタルモノモ拘ヘ
 ラス猶本申出ヲ爲サレトキハ清算事務從テニ遲延ニ涉ルコト其アルヲ以テ爲メ止ムヲ得サ
 ルノ處置ニ出デタルモノナリ

第八十條

(理由) 本條ハ前條ノ期間内ニ申出ヲ爲ササル債權者ノ權利ヲ定メタルモノナリ前條ノ規定ハ清算事
 務ノ了結ノ爲メ止ムヲ得サルニ出ツルモノナルヲ以テ債權者カ右ノ期間内ニ申出ヲ爲スコトヲ怠リ
 レカ爲メニ全ク其權利ヲ失フモノトスルハ頗ル苛酷ニ失スルモノト言ハサルヲ得ス故ニ本案ニ於テ
 ハ申出ヲ怠リタル債權者ハ他ノ債權者暨ニ引渡ヲ受ケタル歸屬權利者ニハ讓ラサシムコトヲ得サ
 ルモ既ニ他ノ債權者ニ辨濟シ未ダ歸屬權利者ニ引渡ササル財産アルトキハ之ニ對シテ請求ヲ爲ス
 コトヲ得ルモノトセリ

第八十一條

(理由) 本條ハ清算人カ既ニ清算ニ著手シタル後法人ノ實力到底其債務ノ全額ヲ辨算スルニ足ラサルコトヲ發見スルトキハ各債權者ハ其債權ノ全額ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ得サルカ故ニ尤モ公平ニ其間ニ法人ノ財産ヲ分配スルコトヲ要ス而シテ破産手續ハ此目的ヲ以テ設ケタルモノナラカ故ニ簡易ナル清算手續ヲ止メテ總密ナル破産手續ニ依ルヲ以テ至高トシテ而シテ破産ノ場合ニ於テハ總債權者等ニ辨濟ヲ受ケルヲ通則トスルヲ以テ既ニ支拂ヲ受ケタル債權者ノミ特別ノ利益ヲ受ケルコトヲ得ス故ニ既ニ支拂ヒタルモノト雖モ之ヲ取戻スコトヲ得ルモノトセリ又此場合ニ於テハ歸屬權利者其還差ヲ受ケヘキ權利ナキヲ以テ既ニ引渡ヲ爲シタルモノト雖モ亦之ヲ取戻スコトヲ得ルモノトセリ

本條第二項ヲ設ケタル理由ハ他アレ破産手續ヲ開始スルトキハ必ス破産管用人ナルモノアリ若シ此外ニ清算人仍ホ存スルトキハ其兩者ノ權限ニ付キ多少ノ疑議ヲ醸スコトトキヲ保セサルノミナラス無用ノ人ヲ置キテ之ニ給料ヲ與フルカ如キハ全ク冗費ト謂ハセラルコトヲ得ザレハナリ

第八十二條

(理由) 法人ノ業務ハ公益ニ關スルヲ以テ第六十七條ノ規定ニ依リ行政官廳ハ平素其業務ヲ監督スル職權ヲ有スルモノトセリ然レトモ法人解散スルニ至リテハ其業務ヲ停止シ其終局事務ヲ開始スルヲ以テ行政上ノ監督ヲ離レテ司法上ノ監督ヲ受ケレメ裁判所ハ私權保護ノ爲メ之ヲ監督スル職權ヲ有

スルモノトセリ

第八十三條

(理由) 第六十七條ノ規定ニ依リ法人ノ業務ハ行政官廳ノ監督ニ屬スルモノナリ故ニ清算終了シ法人ノ殘務全ク終局ヲ告ケタルトキハ之ヲ主務官廳ニ届出シタルハ固ヨリ當然ノ事ナリ

第四節 罰則

(理由) 法人ノ理事、監事又ハ清算人ニ於テ本法ノ規定ニ反スル行為アルトキハ其行為ノ固ヨリ無効ニシテ且之ニ因リテ他人ニ損害ヲ及ボシタル場合ニ於テハ之ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキ言フヲ依ラス然レトモ法人ノ事業タル公益ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ其理事、監事及ヒ清算人ヲレテ嚴ニ其職分ヲ守ラレサルヘカラス然ルニ雖然ハ民事上ノ制裁ノミニテハ未ダ充分ニ本章ノ規定ヲ遵守セシムルノ保障ト爲スニ足ラス是レ本章ノ末尾ニ於テ罰則ノ一節ヲ附加シテ法人ノ機關ノ匪行ヲ制止シ以テ其職務ノ履行ヲ期スルノ必要アル所以ナリ

第八十四條

(理由) 本條ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人カ本章ノ規定ニ反シ其職務ヲ怠リタルカ爲メニ公益ヲ害スヘキ場合ヲ列舉シテ之ニ制裁ヲ附シタルモノナリ而シテ商事會社法ノ罰則ニ於ケル如ク其匪行ノ數額ニ分テ其制裁ニ差等ヲ設タルノ主義ヲ採ラスレテ之ヲ一條ニ概括シテ同等ノ罰科シタル所

知レ得ヘキモノニ非サルヲ以テ強ヒテ其履行ヲ區別シテ之ニ對スル制裁ニ差等ヲ設ケルハ却テ壓柱ノ體アルヘキヲ以テナリ故ニ本條ニ於テハ敢テ其履行ノ間ニ細微ナル區別ヲ設ケス極メテ其制裁ノ範圍ヲ廣クシ共情狀ニ從ヒテ之ヲ處斷スルニ充分ノ餘地ヲ與ヘントトテ期セリ

第八條 債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

債權ノ行使ニ妨礙スル者ハ其妨礙ヲ除去スルニ義務ヲ負フ

第三章 物

(理由) 前二章ニ於テハ私權ノ主格ニ關スル事ヲ規定セリ本章ニ於テハ其權利ノ目的トナルヘキ物ニ關スル事ヲ規定ス

既成法典ハ物ノ種別ニ關シテ頗ル細密ナル規定ヲ掲ケタリト雖モ、財産編五以下ニ條文類雜ヲ過ク實用極メテ少ナキカ如レ本案ニハ成レハク其必要ナキ規定ヲ刪除シ唯其最モ適用多ク且或ハ疑難ヲ生スヘキモノノモ存シ之ニ適當ト信スル所ノ修正ヲ加ヘタリ

財産編第五條ハ物ノ區別ヲ三個ノ原因ニ歸シ物ニ性質人ノ意思及法律ノ規定ニ出ツルモノト爲セリ然レトモ是レ全ク何等ノ必要モナキ條規ニシテ却テ法文ノ體裁ヲ失フカ如レ故ニ本案ニハ之ヲ刪除セリ

同編第六條ハ物ノ第一ノ區別トシテ有體物ト無體物トノ區別ヲ掲ケ且之ヲ定義ヲ下レタリ然レトモ是亦無キ條文ナルノミナラス其定義中ニハ往往經營ナラサル點ナレトモ殊ニ無體物ヲ以テ物權人權其他ノ權利ヲ謂フモノトシ常ニ物權人權ノ目的物タルモノトシタルハ甚メ其當ヲ得ス其結果トシテ債權ノ所有權タルモノヲ認ムルニ至リテハ(取)四六八實ニ物權ノ何物タルコトハ知コト能ハヤラレム此ノ如クシハ所謂人權ナルモノハ常ニ物權ノ目的物ニ過キスレテ結局財産編第一條及

第二條ノ原則ト推著スルニ至ラン本案ハ左ニ掲ケル如ク法律上物トハ單ニ有體物ミヲ指スコト

ニ定メタルニ依リ右ノ條文ハ之ヲ刪除スルヲ至當ト認メタリ

訂正印刷分